



100年以上の
歴史を誇る

新潟まつり 花火大会

新潟まつり花火大会の歴史

始まりは明治43年

明治41年に起きた2度の大火からの復興を願って、萬代橋下流の中州で、花火を打ち上げた「川開き」が起源とされています。

尺玉花火へチャレンジ

大正時代には、二尺玉や三尺玉の花火、昭和時代には、尺玉スターメインが打ち上がるなど、全国的に注目される花火大会になりました。



大正期の
花火大会の様子

全国の花火師が競い合う

かつては、新潟県内外から多くの花火師が集まり、技術や美しさを競い合うコンクールが開催され、各花火大会社が受賞を目指して競い合っていました。



まちで楽しむ花火へ

現在は信濃川周辺の都市化が進み、大輪の花火を打ち上げることはできなくなったものの、花火師の技術と工夫により、アクセスの良い「まちで楽しむ花火」へと進化を遂げています。



これからも続く花火大会へ

翌朝清掃ボランティア参加を募集

日 8月10日(月) 6時半～7時半
集 昭和大橋下やすらぎ堤両岸



詳しくは
こちら

いつも利用しているやすらぎ堤をきれいにしたいという思いと、昔から見てきた感謝の気持ちから参加しています。当日は、散歩感覚で楽しく取り組んでいます。

皆さんも一緒に参加してみませんか。



新潟歩く会
おさむ
佐藤 修さん

花火大会がもっと
楽しくなる!!

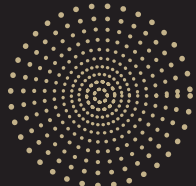
花火のあれこれ

◎花火の種類は無限大!?

花火の種類は、無数にある色や形、光り方の組み合わせで決まるため、無限にあり、花火師たちが日々新たな花火を作っています。代表的な形を覚えて花火大会でさまざまな形を見つけてください。

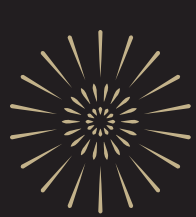
牡丹

いろいろな色火によって丸く見せる花火



やえしん 八重苺

3重の円になっている花火



菊

炭火のような暗い光で尾を引きながら丸く開く花火



かむろ 冠

地上近くまで尾を引く花火



錦

明るい光で尾を引きながら丸く開く花火



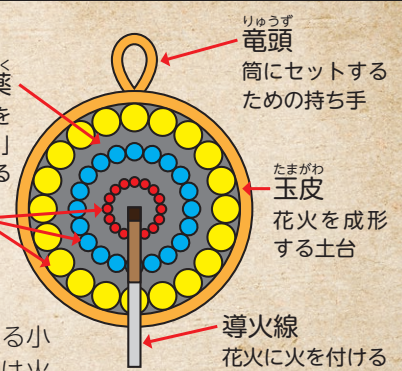
せんりん 千輪

1つの玉の中からより小さな玉が飛び出し、一斉に開く花火



花火の中を見て
みよう!

花火玉の中には、「星」と呼ばれる小さな玉がたくさん入っています。星は火薬に金属化合物などを混ぜて作られていて、火薬が燃える熱によって金属の成分が発光することで色が生まれます。混ぜる成分の種類によって、赤や緑、青などさまざまな色の花火を作ることができます。



りゅうず 竜頭
筒にセットするための持ち手
たまがわ 玉皮
花火を成形する土台
導火線
花火に火を付ける
わりやく 割薬
上空で玉を割り、「星」に火を付ける
星
花火の色を出す

- リチウム → 赤
- ナトリウム → 黄色
- カリウム → 紫
- 銅 → 青
- バリウム → 緑

◎どのくらいの大きさ?

空に上がると元の玉の何百倍もの大きさに広がります。

	3号	4号	7号	10号(1尺)	20号(2尺)
玉の直径(cm)	9	12	21	30	60
開花時の直径(m)	60	150	240	320	480

新潟まつり花火大会で
上がる最大

阿賀野川ござれや花火で
上がる最大